

大会を終えて

～第44回日本クラブユースサッカー選手権（U-18）大会～

@群馬県 各地

2020年12月25日～27日

広島県 2級審判員

大藤 翔平

# はじめに

## 今大会の目的

今大会の地域2級審判員、およびアカデミー審判員の派遣の目的は、研修会による審判技術の向上ではなく「大会の成功」のためでした。

そのために、Zoomを使用した大会参加前の3回の事前研修では「U-18世代の育成において取り組んでいる事」、そのために審判員として意識したい「ヘディングの競り合い」、「アドバンテージについて」の2つの判定についてのディスカッション等が行われました。

また、大会開催中は新型コロナの影響を踏まえ宿舎での集合研修は行われず、個人ごとの部屋からZoomへアクセスしての審判員同士での議論、全体への事務連絡が行われました。

# 事前研修@Zoom

## 研修①（12月9日）

### 「大会趣旨の説明」

- ・日本の将来を担うユース年代選手のサッカー技術の向上と健全な心身の育成を図るとともに、クラブチームの普及と発展を目的とし、連盟第2種加盟登録チームの全てが参加できる大会として実施する。
- ・JFA 技術部は17歳でA代表に呼ばれる選手を輩出することを目指している。  
レフェリーもその目標に視線を合わせてほしい。
- ・競技規則テストの実施

## 研修②（12月16日）

### 「ヘディングの競り合い」

- ・ヘディングの競り合いについて映像を使用し、各グループに分かれてディスカッションを行いました。
- ・どんな“とき”に予測しておくか？  
→ボールが空中にある時、等。
- ・判定するのに、見るポイントは何か？  
→チャレンジの強さ、スピード。ボールの落下地点に対する優先権、等。

## 研修③（12月20日）

### 「アドバンテージ」

- ・アドバンテージについて映像を使用し、各グループに分かれてディスカッションを行いました。
- ・試合の状況、雰囲気とはどういうことか？  
→得点差、時間帯、選手が前へ進む意図があるかどうか。
- ・状況を考慮したうえで、アドバンテージを的確に適用できるために、どのような準備をしますか？  
→事前の視野の確保、選手の特徴を掴んでおく。

# 大会 1 日目 (12 月 25 日)

## 1 回戦 サガン鳥栖 (2-0) ヴァンフォーレ甲府

インストラクター：太田 潔 氏

主審を担当させて頂きました。

警告を出さずに試合をコントロールする方法、負傷者への対応、判定後のシグナルによる周囲への伝え方等のアドバイスを頂きました。

### Zoom での振り返り

・審判員同士で「うまくできたこと」、「こうしとけばよかったこと」についてディスカッションを行いました。

#### 「うまくできたこと」

・初めて組む審判員とも協力して正しい判定に導くことができた。

#### 「こうしとけばよかったこと」

・ボールがタッチライン、ゴールラインの外に出た時にどのタイミングでボールを第 4 の審判員から出すのか、を綿密に打ち合わせすればよかった。

(1 回戦では、新型コロナウイルスの影響によりボールパーソン要員が確保できず全ての予備ボールの管理を第 4 の審判員が行っていました。)



# 大会 2 日目 (12 月 26 日)

## 2 回戦 コンサドーレ札幌 (0-1) 鹿島アントラーズ

インストラクター：太田 潔 氏

A1 を担当させて頂きました。

飲水中のそれぞれの監視の役割分担について、微妙なタッチジャッジ判定後、再開させるまでの方法についてアドバイスを頂きました。

### Zoom での振り返り

・審判員同士で「うまくできたこと」、「こうしとけばよかったこと」、「あらたに気づかされたこと」についてディスカッションを行いました。

#### 「うまくできたこと」

・試合前の準備。(フィールドインスペクションを早く始めたことにより、ゲームに余裕もって入れた。)  
→昨日の反省が生かされていた。

#### 「こうしとけばよかったこと」

・今日担当するのチームの試合の情報収集をしとけばよかった。  
→映像を見る (今大会の映像は youtube にて公開されています。)  
→お互いのチームのスタイルを把握しておきたかった。(ボール保持するスタイルかどうか等)  
→試合前にレフェリーとアシスタントで会話したかった。(前日からのコミュニケーションをとるべき)

#### 「新たに気づかされたこと」

・担当した試合はアウトオブプレーの時間が見短かかった。(昨日と比べて。)  
→ボールボーイがいる、いないで大きく違う。  
・選手の疲労が見える。  
→手のファウルが 1 日目と比較して増えたのでは？  
・自分の地域の同じ年代のゲームと比較して。タフなゲームが多い。  
→そういうゲームにレフェリーが導きたい！！

## 大会 3 日目 (12 月 27 日)

### 3 回戦 大宮アルディージャ (0-1) 横浜・F・マリノス

インストラクター：泉 弘紀 氏

主審を担当させて頂きました。

主審のアクションによる雰囲気づくり、自身の見せ方（周囲に強い印象を与えるには）についてアドバイスを頂きました。



## まとめ

この度は日本クラブユースサッカー選手権への参加を推薦頂きありがとうございました。日ごとに増えていく新型コロナの感染者数をニュースで見ながら大会自体が行われるのか不安ではありましたが無事に派遣の全日程を終えることができました。大きな混乱なく大会を開催できたのも多くの運営の方々のご尽力あってこそです。私も大会の運営の一部に携わることができ改めてサッカーが当たり前に行える喜びを実感しました。

今回の大会では、普段とは異なる Zoom での事前研修や会場での感染症対策などにより限られた条件ではありますが、他の地域の審判員と交流することができました。これまで全国大会の研修に参加させて頂いた際には年上の方ばかりでしたが、今回の研修では私より年下の審判員が約半数を占めていました。今シーズン中国地域で担当する試合でも私より若い審判員と担当する事が多くなってきました。まだまだ私自身学ばせて頂く事も多いですが、これまで学んできたことを若手の審判員、特に現在の活動の場である中国地域の若手審判員に自分の姿や言葉で伝えていかなければならないという思いも今回の研修会で感じました。

また、今大会に出場しているチームは中国地域の同世代 (U-18) の試合と比較すると、少々のフィジカルコンタクトでは倒れず、倒れてもすぐに立ち上がり次のプレーに移る意識が高い印象を受けました。今後、中国地域のチームが全国の舞台で躍進するには、このギャップを埋める必要があると思います。そのようなゲーム環境を作り上げるために、審判員が選手のタフなプレーを引き出すようなレフェリングができれば最高です。

最後になりますが、今年1年間お世話になりました。難しいシーズンではありましたが、選手、チームスタッフ、並びに大会運営役員、すべての方々のご尽力のおかげで無事1年を終えることができました。来年も普段とは違う環境になるかとは思いますが、サッカーができる喜びを忘れずに活動していきたいと思っています。

引き続きよろしくお願い致します。